竈門神社

 竈門神社は玉依姫を祀っています。玉依姫は、恋愛運や縁結びと関係があります。そのため、この神社には、交友関係の中で幸福や幸運を求める人々が多く集まります。

玉依姫を祀る竈門神社は1350年以上前から参拝客が訪れています。西日本の事実上の首都が大宰府であった時代には、使者は航海の安全を祈るために訪れ、唐(618~907年)への旅に出ました。

大工は、神社の頑丈な柱と掃き屋根を製作するためにヒノキを使用しましたが、何世紀にもわたって幾度も改築が行われてきました。桜が咲く春や、黄金と赤色の紅葉がみられる秋には境内が変容します。

宝満山は神社の裏手にありました。山は太宰府の北東に位置していますが、伝統的に邪気はこの方向から入ります。このように、山はこれらの悪霊から都を「守護する」ために重要な役割を果たしてきました。山は、極限的な自然での実践を伴う山岳信仰に基づく民間信仰である修験道の伝統的な場所となっています。